



「観光と都市再生」WS スペインから参加



The international workshop was held. "Tourism and City Regeneration"

1月13～15日に「観光と都市再生」をテーマとした国際ワークショップが、東京大学c-SUR主催で開催されました。また、ワークショップの他にも、都市デザイン研究室との交流会が行われ、各大学のプレゼンテーションや意見交換が行われました。

The international workshop was held, which theme is "Tourism and City Regeneration", produced by c-SUR of the University of Tokyo. Moreover, the participants discussed through the presentation of each group and the social gathering.

text_suzuki

D1 パンノイ・ナッタポン

text_sakuraba

今回のワークショップには、スペインからカタルーニャ工科大学が参加しました。都市デザイン研究室からは、14日にD1のフーやD2のタリクラが、ワークショップに参加した他大学の学生と合同で博士研究に関するのジュリーを行いました。15日には私が「観光と都市再生」について発表を行いました。

また、阿部助教の企画により、都市デザイン研究室とは特別に、1月12日にカタルーニャ工科大学のサガラ教授らを迎え、研究室のプロジェクトに関する意見交換会が行われました。各PJの発表者は海外の研究者からの新鮮なコメントをいただき、PJを取り組む新たな視点が得られたと思われませんが、自分たちの活動を分かりやすくかつ的確に伝える技術や、英語に臆さない訓練の必要性を感じさせた交流会でした。

カタルーニャ工科大学との交流会では、佐原プロジェクトの活動に関してプレゼンテーションを行いました。発表後、参加者の女性に回遊性の実験用に作成したうちわ型マップに対して、「感動した」と言っていたのが、印象的でした。

直接的には回遊性とは関係ないですが、うちわという形に代えた細やかな気配りは、私たち独特な感覚なのかもしれないと思いました。なかなか自分たちのプロジェクトを紹介する機会はないものですが、発表することで改めて客観的に見つめることができ、プロジェクトとしても非常に意味のある交流だったと感じています。



▲ Our project



▲ Prof. Sagarra



▲ Prof. Magrinya



▲ Participants

From the eyes of a international student

D1 Yoon Zoosun
Korea

Yoon Zoosun(a doctor student) came from Korea 3 months ago. In this colum, he tells us about his favarite city in Japan. He chooses Kichijoji.

"There has everything"

It was the first explanation about Kichijoji that I heard. As 3months passed by I can say it really is. Kichijoji seems like "city.zip". This town contains various spectrums from traditional cozy stores, super-narrow alleys to contemporary chic departments, huge commercial streets. Being able to experience totally different faces in one area is definitely attractive. Since lively public spaces are sewing these different scaled places together relatively well, skipping to other zones is always exiting.

Above all, the most impressive factor that makes this town unique is Inokasira Park. When I first stepped in this park, I felt like opening the door of "Wonderland" with Alice. Just a few steps back I had been surrounded by a diverse range of vital city, and then as soon as crossing the line I was suddenly in the calm and peaceful nature. Although Seoul also has big parks such as Yeido Park in the middle of city, they look separated from a routine daily life. I have hardly seen lots of people who stroll with baby carriage in Yeido-park. But Inokasira Park is located in the pedestrian circulation between residential area and commercial area. Therefore people could easily reach and enjoy.

I used to roam around Kichijoji several hours at every weekend since I had got Japan. But with those "Urban Buffet" this town has never made me bored. In short, Kichijoji is a well-organized mosaic town that keeps excellent balance and harmony. Thus I had no choice but to becoming one of the biggest fan of Kichijoji.



▲ A shopping street in Kichijoji



▲ Inokashira Park

忘年会を振り返る また新たな1年を



Looking back to the year-end party, Let's start a new year!
In this column, our two teachers' comment are following.

前号では掲載できなかった、野原助教・阿部助教の忘年会での挨拶をお届けいたします。2009年を振り返って、そして2010年を見据えて語っていただきました。

今の研究室を見てみると、4年生から一番上は十何年やっている人たちが都市の魅力について考える人たちが一同に会する場があるということ自体がすごいと思う。卒業して社会に出ると、都市について語り合える人が何十人も同じ場に集まるなんていう状

一期一会

助教 野原 卓



況は有り得ない。だから、ちゃんとコミュニケーションをとって先輩の話聞いて下さい。榎先生の研究室の本が出ましたが、その本にもありました。当時のノスタルジーが書いてあるのではなく、今、自分がどうしているか、当時考えていたことがいかに今に反映されているかということが。修士だと高々二年。その中で様々な人に巡り会って、議論して、プロジェクトをして、それが卒業した後も息づいて、自分たちの糧になる。だから、こういう場をすごく大切にしたい。

プロジェクトに関して、実は密かに続いているものがある。例えば僕も年に三回は大野村というところに行きます。(今は洋野町という名前だけ。)僕は洋野町まちづくり推進アドバイザーになっています。密かにちゃんと行っています。あと最近嬉しいと思っているのが、喜多方プロジェクトも続いていて、今、岡本さんが中心を担っていますが、そのつながりの中で、気付いたら違う仲間ができていたりする。

それともうひとつ。皆、計画しようよ。最近自分のビジョンを持って何か計画し、提案するということが、嫌われている感じがする。でも、都市の未来を考える人達が集まる都市デザイン研究室、ビジョンを決めることは難しいことだけど、ぶつかるのを恐れずに、本当に必要なものは何か、考えることが大事。最近、先端研の所長の前で、周りがiPS細胞や宇宙の未来について話す中で、産業観光について発表する機会が突然やって来ました。その時に「この研究のお客さんは誰ですか。」と質問されました。要するに、誰のために研究をやっているのか、と。忘れがちだけど、研究とかプロジェクトとかはそもそも誰のためにやっているのか。そういうことが大事だということを改めて考えさせられました。

最後に一言。婚活も頑張るけれど、まだ色々言いたいことはありますけど、一期一会だということです。巡り会いが大切です。皆がこの場に

分野を超えて

助教 阿部 大輔



お題が「今年の自慢」ということで、マガジン忘年会号に文章を出しました。表題が付いていると思いますが、誰も表題としては出していません。中島さんは「今、生きている生」、野原さんは「都市への眼差しを胸に」、私が「濃い〜一年!!」(笑)何だかオチのようになっていますが、確かにここ数年で一番濃かったかもしれません。

今年、とてもうれしいことがいくつかありました。まずは、自分の博士論文をベースにして著作を出せたことです。みなさん、買いましたか〜?(一同「買いました〜」)買った人、手挙げて〜!(一同「は〜い」)少ない!(笑)一応バルセロナに旅行する時には役立つと自負しております。「旅行?」いえ、調査に!(笑)

今日、バルセロナでの現地調査から帰国したばかりですが、現地の図書館に自著を寄贈しました。完全に日本語の著作だけれど、喜んで受け取っていただいて、検索したら、ちゃんと引っ掛かった。個人的には非常に嬉しくて、逆にいうと、表紙にせめて表題のスペイン語訳くらいは入れておくのだったと思った次第です。

それはさておき、今年一番の出来事は娘が生まれたことでした。生活リズムが一変しましたが、都市と絡めると、やっぱり都市のスケール感というか寸法が気になって。実は今年、GCOEで建築の太田さんと社基の川添さんと寸法研というものを立ち上げましたが、歩道の広さやスロープの角度がすごく気になることがあって、子供がいるとなおさら注目がいくのかなと、実感しているところです。

cSUR、私の直接の所属は都市持続再生研究センターで、建築と社基と都市工の教員が協同して、様々な研究をやるという組織ですが、当然ながらすごく難しい。最近、縮小都市の研究を始めて、隣接するけれど異分野の人と協同することの楽しさを実感しつつあります。皆さんも研究室での切磋琢磨もさることながら、近い分野に建築と社基という専攻もあるので、特に博士課程の学生は積極的に視野を広げていくと、今の体制だと発展の可能性があるのでは、本当に面白いと思います。

寸法研、冊子発行へ!

"Dimension/scale-Workshop", founded by Daisuke Abe, our assistant teacher, will publish a booklet focusing on dimension/scale of "street".
text_suzuki

助教の阿部先生が、建築学専攻の太田浩史氏、社会基盤の川添善行氏とともに立ち上げた「寸法研究会」の一年の活動の締めくくりとしての冊子、「寸法研・オン・ストリート」が年度末の発行に向けて、編集・入稿されました。都市空間を決定する要因となるものの寸法に目を向ける「寸法研究会」。今回は「街路」というテーマのもと、これからの街路空間のデザインの参考となる資料を作ろうと、様々な視点から街路を取り上げ、図面にしていく作業を行いました。図面作成、ページ作成に携わりましたが、様々な都市の断面を見比べると、その都市の表情が浮かび上がり、非常に有意義な作業だったと思います。また、他専攻の方と作業する中で、専攻によって図面を見たり書いたりする時の視点が違ったり、興味がわく点も違い、刺激を受けるとともに、これからの協同の可能性も強く感じました。



▲足助川沿いの断面図

都市デザイン研究室 情報欄

お知らせ

北沢先生を偲ぶ会
「アーバンデザイナー・
北沢猛の軌跡(仮称)」
3/14開催@東大構内

北沢先生が進められた数々のプロジェクトでの先生のご活躍を、関係者の方々に語っていただく予定です。ぜひお越し下さい。

1月-2月の予定

- 1月26日 研究室会議
- チュラロンコン大学(タイ)との交流会
- 2月5-8日 大学院生ジュリー
- 2月9-10日 修士論文発表
- 2月16日 学部4年生卒業設計発表

編集後記

いろいろな締め切りが次々とやってくるこの季節。大波に飲み込まれることなく、何のための作業なのか、忘れずに取り組んでいきたいものです。今年の目標は、寝る前に体幹鍛えて読書。

text_suzuki